

あやかる

田中 愛子

高校の同級生に梨奈子さんという友だちがいて、りなちゃんと呼ばれていた。キラキラネーム花盛りの今なら驚くこともないけれど、当時はとてもおしゃれでかわいくて、かずこちゃんやあいこちゃんたちはその名に憧れたものだ。そのりなちゃんに名前の由来を聞いたことがある。お父さんがオードリー・ヘップバーンのファンで、出演作「麗しのサブリナ」の主人公の名前から付けたということであった。ことばには靈力がやどると考えられているので、名前には真、美、優などよいことばが使われるけれど、人物の名前によることも多い。その名前には、本人にあやかっただけで、秀でた人、素敵な人になってほしいという願いが込められているのである。

「海」の字を四股名に負へる人ゆかしとりわけ沖繩生れの二人 武田弘之「コスモス2020年4月号」

力士は出身地の地名を名ることが多いが、ふるさとの山や川を四股名に付けるとき、単なる呼び名ではなく、ふ

るさとそのものを背負い、ふるさとの力を授かっているのである。また、相撲界には親方や先輩の名前を継ぐ力士もいる。出世を願い、立派な功績を残した先人にあやかろうというのであろう。オールドファンには、かつて親しんだ力士が帰って来たような懐かしい気持ちになり応援したくなる。

日本の伝統芸能にも名前を継ぐ文化がある。名跡を継ぐ、襲名という制度である。最近では、歌舞伎の團十郎や幸四郎が話題になった。先代と現在の役者が同じ名前になるのでややくいこともあるけれど、先日のNHK「日本人のおなまえっ！」で歌舞伎の襲名を取りあげたのを見ていたら、なるほどと納得させられた。もとはというと、歌舞伎の人気を保つために、急逝した初代團十郎の名を息子に継がせたというのである。新人を一から売り出すよりも、誰もが知っているおおきな名前芝居を打つほうが、興業の上でだんぜん有利だったのだ。ただ、襲名にはそれだけでなく、亡くなった人を忘れず、悼み魂をなぐさめる意味もあったのではないかと、ビデオ出演の金田一秀穂先生がコメントされていた。伝統芸能ではないけれど、金田一先生も、同じ言語学者であった御祖父や御尊父と同じ名前得をしているそうである。

それはそうと、サブリナにあやかっただけで名付けられたりなちゃん、さぶちゃんではなくてよかったですね。